

April 30, 2026

【前日の為替概況】ドル円、160.47円まで上昇 24年7月以来の高値を更新

29日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続伸。終値は160.41円と前営業日NY終値(159.62円)と比べて79銭程度のドル高水準だった。「トランプ米大統領はイランの提案を拒否し封鎖継続を表明」「イランが行動を起こさなければトランプ米大統領は軍事行動を検討」との報道が伝わると、WTI原油先物が一時1バレル=108.49ドル前後まで急伸。為替市場では「有事のドル買い」が先行した。米連邦公開市場委員会(FOMC)結果公表後に米10年債利回りが一時4.4318%前後と約1カ月ぶりの高水準を記録すると、全般ドル買いが加速。取引終了間際に160.47円まで上昇し、2024年7月以来の高値を更新した。

なお、FOMCは市場予想通りFFレートの誘導目標を3.50-3.75%に据え置くことを決めたと発表。声明では「インフレ率は高止まりしている」「中東情勢の展開は、経済見通しに対する高い不確実性の一因」との見解が示された。採決ではミラン理事が0.25%の利下げを主張し、据え置きに反対。ハマック米クリーブランド連銀総裁、カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、ローガン米ダラス連銀総裁は据え置きに賛成したものの、声明文に緩和バイアスを盛り込むことに反対した。

なお、パウエルFRB議長はFOMC後の会見で「インフレ率は最近上昇しており、高水準にある」「経済見通しは依然として極めて不確実」と述べたほか、「FRB理事として引き続き職務を務める」「適切だと思う時期にFRBを去るつもりだ」との考えを示した。

ユーロドルは続落。終値は1.1677ドルと前営業日NY終値(1.1712ドル)と比べて0.0035ドル程度のユーロ安水準だった。中東での戦闘終結へ向けた米国とイランの協議が停滞する中、原油高・株安・ドル高が進行。FOMC結果公表後に全般ドル買いが活発化すると、前日の安値1.1677ドルを下抜けて一時1.1661ドルまで値を下げた。

ユーロ円は続伸。終値は187.21円と前営業日NY終値(186.90円)と比べて31銭程度のユーロ高水準。前日の日銀金融政策決定会合後の植田和男総裁の発言を受けて、日銀の早期利上げ期待が後退する中、円売りが出やすい地合いとなった。1時前に一時187.41円と日通し高値を更新した。ただ、ユーロドルの下落につれた売りが出ると伸び悩んだ。

【本日の東京為替見通し】ドル円、本邦通貨当局のドル売り・円買い介入に要警戒

本日の東京外国為替市場のドル円は、植田日銀総裁のハト派の見解、タカ派的なFOMC声明、原油価格高騰を受けて160円台に乗せてきていることで、本邦通貨当局によるドル売り・円買い介入に警戒せざるを得ない展開となる。

片山財務相は、2024年の連休中など過去の為替介入には効果があったと評価した上で「フリーハンドで投機的な動きに断固たる措置をとる。大型連休中を含めた米国との緊密な連携」に言及しており、ドル売り・円買い介入に身構えておきたい。2024年4月29日にドル円が160円台に乗せた局面では、本邦通貨当局が過去最大規模の覆面円買い介入(5兆9185億円)を断行したことで、154円台まで急落していた。

昨日のWSJ紙は、トランプ米大統領が側近に対してイラン封鎖の長期化に備えるように指示したと報じた。先日、イランはホルムズ海峡の開放により暫定的な停戦合意を優先し、トランプ政権が望む核兵器開発阻止の議論を先送りするという提案をしていたが、「トランプ米大統領はイランの提案を拒否し封鎖継続を表明。イランが行動を起こさなければトランプ米大統領は軍事行動を検討」と報じられており、WTI原油先物価格は108ドル台まで上昇している。

米国憲法上、戦争を宣言する権限は議会にある。戦争権限法は、大統領が議会の承認なしに敵対国に武力を行使した場合、共同決議によって軍の即時撤退を求めることができると規定している。また、60日以内に議会から武力行使の承認を得られなければ、30日以内に撤退しなければならない。イラン戦争の開戦日は2月28日だが、トランプ政権が議会に公式に作戦開始を通知した時点(3月2日)から日数が数えられるため、デッドラインは、明日5月1日(現地時間)に迫っている。

米軍を撤退させない場合、トランプ米大統領が選択できる方法は、共和党を説得して上下両院で戦争の承認を得るか、議会の同意なしに自ら戦争延長を強行するかとの2つである。しかし、トランプ米大統領はこれまで米国の憲法や法律、そして国際法を無視してきており、「イランが行動を起こさなければトランプ米大統領は軍事行動を検討」との報道は、議会の同意がなくてもイラン戦争延長を強行することを警告しているのかもしれない。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 3月鉱工業生産速報（予想：前月比1.1%／前年比2.2%）
- 08:50 ◇ 3月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比1.0%）
- 14:00 ◇ 3月新設住宅着工戸数（予想：前年比▲28.5%）
- 14:00 ◇ 4月消費動向調査（消費者態度指数 一般世帯、予想：32.8）
- 19:00 ◇ 外国為替平衡操作の実施状況（介入実績）

<海外>

- 10:00 ◇ 4月ANZ企業信頼感
- 10:30 ◇ 1-3月期豪輸入物価指数（予想：前期比▲0.6%）
- 10:30 ◎ 4月中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：50.1）
- 10:45 ◎ 4月RatingDog中国製造業PMI（予想：51.0）
- 14:30 ◇ 3月仏消費支出（予想：前月比0.8%）
- 14:30 ◎ 1-3月期仏国内総生産（GDP）速報値（予想：0.2%）
- 15:00 ◇ 3月独輸入物価指数（予想：前月比3.6%／前年比1.6%）
- 15:00 ◎ 3月独小売売上高（予想：前月比▲0.2%／前年比0.5%）
- 15:45 ◇ 4月仏消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比0.9%／前年比2.0%）
- 16:00 ◇ 4月スイスKOF景気先行指数（予想：95.7）
- 16:55 ◎ 4月独雇用統計（予想：失業率6.3%／失業者数変化0.43万人）
- 17:00 ☆ 1-3月期独GDP速報値（季節調整済、予想：前期比0.1%／前年同期比0.2%）
- 18:00 ☆ 1-3月期ユーロ圏GDP速報値（予想：前期比0.2%／前年比0.9%）
- 18:00 ☆ 4月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比3.0%）
- 18:00 ☆ 4月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比2.2%）
- 18:30 ◇ 3月南アフリカPPI（予想：前月比0.8%／前年比2.0%）
- 20:00 ☆ 英中銀（BOE）、政策金利発表（予想：3.75%で据え置き）
- 20:00 ☆ 英中銀MPC議事要旨
- 21:00 ◎ 3月南アフリカ貿易収支（予想：290億ランドの黒字）
- 21:00 ◎ 1-3月期メキシコGDP速報値（予想：前期比▲0.6%／前年比0.7%）
- 21:15 ☆ 欧州中央銀行（ECB）定例理事会、終了後政策金利発表（予想：2.15%で据え置き）
- 21:30 ☆ 2月カナダGDP（予想：前月比0.2%／前年比1.0%）
- 21:30 ◎ 3月米個人消費支出（PCE、予想：0.9%）
- ◎ 3月米個人所得（予想：前月比0.3%）
- ☆ 3月米PCEデフレーター（予想：前年比3.5%）
- ☆ 1月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.3%／前年比3.2%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.3万件／181.5万人）
- 21:30 ☆ 1-3月期米雇用コスト指数（予想：前期比0.8%）
- 21:30 ☆ 1-3月期米GDP速報値（予想：前期比年率2.2%）
- ◎ 1-3月期米個人消費（速報値、予想：前期比年率1.4%）
- ◎ 1-3月期米コアPCE（速報値、予想：前期比年率4.1%）
- 21:45 ☆ ラガルドECB総裁、定例記者会見
- 22:45 ◎ 4月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：54.8）
- 23:00 ◎ 3月米景気先行指標総合指数（予想：前月比▲0.2%）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

29日 09:08 ウィリス NZ 財務相
「ニュージーランド経済は、原油高により危機的な状況に陥りつつある」

29日 10:10 トランプ米大統領
「我々は現在、中東で非常にうまくやっている」
「中東に関して、チャールズ英国王も私に同意している」

29日 17:14
「イランは状況を整理できていない」
「彼らは非核合意への署名の仕方も分かっていないようだ」
「彼らは早急に賢明になるべきだ」

30日 03:22
「プーチン大統領とウクライナについて話した」
「プーチン大統領とイランについても話した」
「プーチン大統領はイランのウラン濃縮に協力したいと述べた」
「解決策を見たいと考えていると思う」
「イランに核兵器を持たせないと改めて表明」
「プーチン大統領は停戦を発表するかもしれない」

29日 11:08 チャーマーズ豪財務相
「オーストラリアのインフレ率は、もっと高い水準まで上昇する見込み」
「予算案の前に、インフレ見通しを精査していく」

29日 15:53 カザフスタン・エネルギー省
「OPEC+離脱を検討していない」

29日 22:49 カナダ銀行(BOC、カナダ中央銀行)声明
「中東情勢の緊迫化は市場のボラティリティを高めており、米貿易政策は世界の貿易パターンを継続的に変化させている」
「これらはいずれも不確実性の要因となっている」
「4月見通しでは、関税は据え置かれ、原油価格は2027年半ばまでに1バレル75ドルまで下落すると想定」
「イラン紛争はエネルギー価格の急騰と輸送網の混乱を引き起こし、石油輸入国の成長見通しを悪化させ、世界的なインフレを加速させている」
「金融情勢は、中東情勢の日々の展開やインフレ率・金利に関する市場の期待変動を反映し、不安定な状態が続いている」
「カナダドルの為替レートは比較的安定している」

「個人消費と支出が経済活動を支えている一方で、関税や貿易をめぐる不確実性が輸出と企業投資の重荷となっている」

「4月予測では、2026年のGDP成長率は1.2%、2027年に1.6%、2028年に1.7%に上昇すると予測」

「3月の上昇は、数カ月にわたるインフレ率の鈍化傾向に続くもの」

「コアインフレ率は緩和傾向にあり、最新のインフレ報告では2%強で安定している」

「4月のCPI上昇率はさらに上昇し、約3%になると予想」

「原油価格の下落を前提とすれば、インフレ率は来年初めに目標の2%まで低下し、予測期間を通じて2%前後で推移すると見込まれる」

「我々は中東紛争の影響、そして米関税措置や貿易政策の不確実性に対する経済の反応を注視している」

「紛争がインフレに及ぼす直接的な影響を見極めつつも、エネルギー価格の高騰が持続的なインフレにつながることを容認しない」

「今後の見通しが変わるにつれ、必要に応じて対応していく」

「我々はこの世界的な混乱期において、カナダ国民が物価安定への信頼を維持し続けるよう注力していく」

30日 00:20 マックレム・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「基本シナリオでは、政策金利の変更は最小限にとどまる見込み」

「政策金利は、様々なリスクの展開次第で調整が必要となる可能性」

「エネルギー価格の高騰が続くことで、インフレが一般的に拡大すれば、連続的な利上げが必要となる可能性」

「米国による新たな貿易制限措置が講じられれば、政策金利のさらなる引き下げを余儀なくされる可能性」

「現在、経済の不確実性が異例の高水準にあるため、金融政策は柔軟性を維持しなければならない」

「中東情勢の混乱は、カナダ経済全体の成長にほとんど影響を与えないと予想」

「将来の利上げに関する具体的なスケジュールは定められていない」

30日 00:37 イランのガリバフ国会議長

「トランプ米大統領がイランに降伏を迫っている」

「敵はイランを弱体化させるために内部分裂を煽っている」

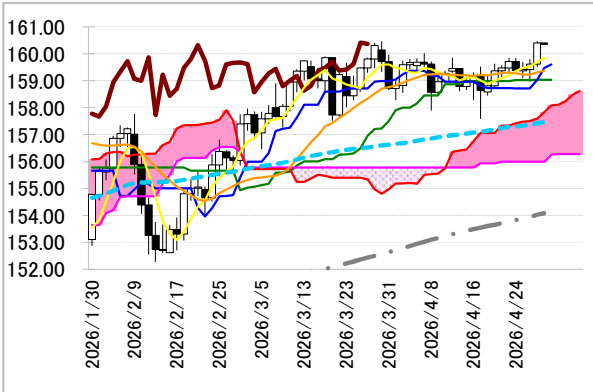
30日 03:02 米連邦公開市場委員会(FOMC)声明
「入手可能な指標は、米経済活動が堅調なペースで拡大していることを示唆」
「雇用の伸びは平均して依然として低水準にとどまり、失業率はここ数カ月ほとんど変わっていない」
「インフレ率は高止まりしており、これは世界的なエネルギー価格の上昇を部分的に反映したもの」
「委員会は雇用最大化と長期的な2%のインフレ率の達成を目指す」
「中東情勢の展開は、経済見通しに対する高い不確実性の一因となっている」
「委員会は2つの使命の両面に対するリスクを注視している」
「目標を支援するため、委員会はFF金利の目標誘導レンジを3.50-3.75%に維持することを決定した」
「FF金利の目標誘導レンジに対する追加調整の程度と時期を検討するに当たり、委員会は今後もたらされるデータ、変化する見通し、リスクのバランスを慎重に評価する」
「委員会は雇用最大化を支援し、インフレ率を2%の目標に戻すことに強く取り組む」
「金融政策の適切な姿勢を評価するに当たり、委員会は今後もたらされる経済見通しに関する情報の意味を引き続き監視する」
「もしも委員会の目標の達成を妨げる可能性があるリスクが生じた場合、委員会は金融政策の姿勢を適切に調整する準備がある」
「委員会の評価は、労働市場の状況、インフレ圧力、インフレ期待、金融と世界の動向を含む幅広い情報を考慮する」
「今回の決定に反対票を投じたのはミラン委員で、0.25%の利下げを主張。また、ハマック氏、カシュカリ氏、ローガン氏は政策金利の維持を支持したが、現時点では声明に緩和バイアスを盛り込むことには賛成しなかった」

30日 03:36 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「米経済は堅調なペースで拡大している」
「雇用の伸びは低調で、失業率はほとんど変化していない」
「中東情勢の不確実性は高まっている」
「個人消費は底堅い」
「住宅セクターは依然として低迷している」
「現在の金融政策スタンスは適切である」
「雇用の伸び鈍化の一因は移民の減少を反映」
「労働需要も明らかに軟化している」

「これがFRB議長として最後の記者会見になる」
「インフレ率は最近上昇しており、高水準にある」
「経済見通しは依然として極めて不確実」
「銀行委に承認されたウォーシュ氏に祝意を述べたい」
「FRB理事として引き続き職務を務める」
「適切だと思う時期にFRBを去るつもりだ」
「理事としては目立たないようにするつもりだ」
「政権によるFRBへの措置は前例のないもの」
「私の懸念はFRBに対する法的攻撃」
「今後2四半期で関税インフレは減速すると予想」
「エネルギー価格の見通しについては、まだ検討段階ではない」
「声明における緩和バイアスについて活発な議論が行われた」
「文言変更を支持する委員が増えた」
「次回合会で金利ガイダンスが変更される可能性もある」
「現時点で利上げが必要との声は聞かれない」
「持続可能な形でガイダンスを作成したい」
「金利ガイダンスの文言は議論する価値のあるものだ」
「法律はFRBが独立した金融政策を実施できる環境を整えている」
「FRBと財務省の権限の境界を尊重する必要」
「FRBの独立性はリスクにさらされている」
「トランプ大統領に立ち向かうとのウォーシュ氏の言葉を信じる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

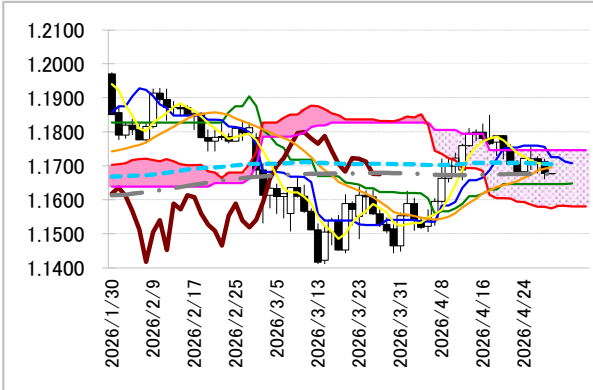


<ドル円=24年7月以来の161円台が意識される>

陽線引け。159円半ばで底固めすると、上値を試す展開となった。160円台乗せに成功し、3月30日高値も僅かながらに上抜けて、2024年7月以来の高値160.47円を記録した。

日足一目・転換線は159.47円まで上昇し、実線が昨日高値を超えていくと水準を切り上げる。約1カ月ぶりの160円台で引けて地合いの強さを確認しており、24年7月以来の161円台を意識しながらの値動きとなりそうだ。

レジスタンス 2	161.76(2024/7/11 高値)
レジスタンス 1	161.08(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	160.41
サポート 1	159.47(日足一目均衡表・転換線)

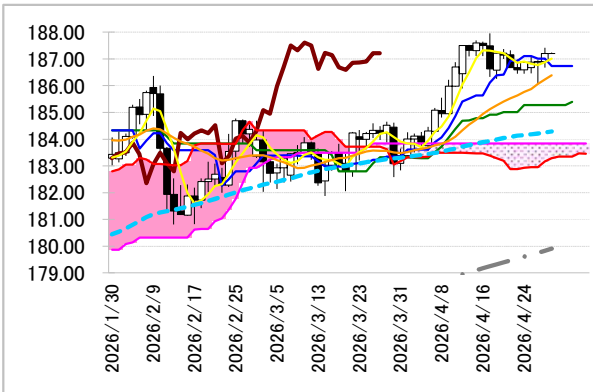


<ユーロドル=200日線を念頭に置いた取引>

陰線引け。1.1720ドル台の28日高値の手前で頭を抑えられると、1.16ドル台に再び入り込んだ。28日安値を割り込んで1.1661ドルまで下値を広げる場面があった。

日足一目・雲の中で伸び悩むなか、本日1.1676ドルに位置する200日線を念頭に置いた取引か。1.1640ドル台の基準線を下抜けるようだと、下値余地をさらに探る展開を想定。上値は、昨日届かなかった28日高値をポイントと見込む。

レジスタンス 1	1.1727(4/28 高値)
前日終値	1.1677
サポート 1	1.1590(4/8 安値)

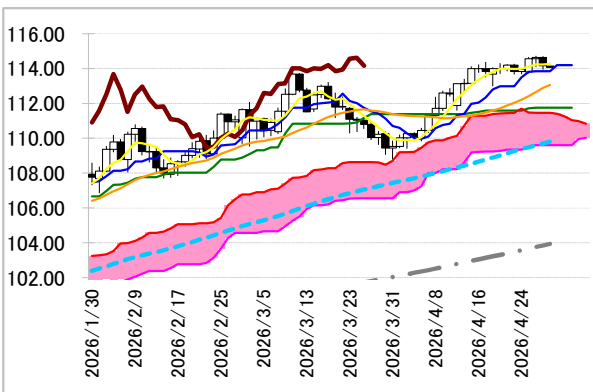


<ユーロ円=転換線から昨日安値が支持帯として働くか>

陽線引け。186円後半で下げ渋ると、下向きの日足一目・転換線を上抜けて187円台で上値を試した。一時は21日高値を超えて、187.41円まで上げ幅を広げた。

転換線は昨日の187円付近から186.74円まで低下し、しばらく同水準で推移が示唆されている。同線から昨日安値186.68円辺りが支持帯として働くようだと、17日につけた年初来高値を試す場面がありそうだ。

レジスタンス 1	187.95(4/17 高値=年初来高値)
前日終値	187.21
サポート 1	186.68(4/29 安値)



<豪ドル円=一目・転換線が攻防の分岐点に>

陰線引け。28日につけた年初来高値には僅かながら届かず、114.71円を頭に114円割れまで失速。日足一目・転換線の手前で支えられて114円台を回復したが、4手ぶりの陰線引け。

転換線は本日も113.85円だが、明日からは114円前半まで上昇見込み。同線が支持となれば、再び28日高値を狙う展開となりそうだ。一方で同線をクリアに割り込むようだと、113円割れの20日安値が意識され始めるだろう。

レジスタンス 1	114.72(4/28 高値)
前日終値	114.16
サポート 1	112.99(4/20 安値)

